FOMC会合では据え置きの公算が大

2026年10月27～28日開催 ／ 10月26日時点

政策金利 3.75～4.00%で据え置きが中心予想

・CME FedWatchの据え置き確率は約90%（10月25日時点）

・ロイター調査は100人中94人が今回据え置き、全員が12月利上げを予想

・経済見通し・ドットチャートの定例更新なし。声明と議長会見に注目

決定・発言のシナリオ	予想との違い	相場の初動の見立て
据え置き・追加利上げの余地を残す	おおむね予想の範囲	決定だけでは方向感が出にくい
今回利上げ／大幅・連続利上げを示唆	タカ派サプライズ	米金利上昇・ドル高、株に逆風
追加利上げの必要性を弱める	ハト派サプライズ	米金利低下・ドル安、株を支援

焦点は12月以降の「利上げの回数・幅」と最終到達金利

出典：FRB、Reuters（10/20調査）、Barron's（CME織り込み）／相場反応は想定

タカ派な発言がやや目立つか

発言日の新しい順・10件 ／ 2026年10月26日時点 ／ 日本語要約

発言日	発言者	分類	主な内容
10/16	ウォーシュ議長	中立	年内の政策対応を事前に明示せず、会合ごとに判断
10/15	ハマック（クリーブランド）	タカ派	期待インフレが悪化すれば、より強い政策対応も必要
10/14	デイリー（SF）	ハト派	追加利上げの可能性は高いが、判断を急ぐ必要はない
10/14	グールズビー（シカゴ）	タカ派	9月CPIに失望。サービス価格の改善の乏しさを懸念
10/14	ボウマン監督担当副議長	ハト派	9月利上げの影響を見極め、追加措置を急がない
10/13	ウィリアムズ（NY）	ハト派	年内あと1回を想定。来年の追加利上げは現時点で不要
10/13	コリンズ（ボストン）	タカ派	物価を2%へ戻すため、年内にもう少し利上げが適切
10/12	ハマック（クリーブランド）	タカ派	需要抑制へ追加利上げが必要。実施時期は未定
10/8	ムサレム（セントルイス）	タカ派	追加引き締めが必要。今後6〜9カ月の利上げに言及
10/8	ウォラー理事	中立	追加利上げを想定するが、毎会合での実施は不要

分類：直近発言を基にした相対評価（当方整理）。公式の区分ではない

出典：Reuters ／ 現地日付。同一人物の別日の発言を含む。SF・NYは連銀所在地